第三則　最後疾病費用ノ先取特権

第百四十条

先取特権ヲ生セシムル可キモノハ債務者ノ死ヲ致シタル疾病ノミニ止マル可キヤ将タ債務者ノ破産若クハ其無資力ノ為メ財産ノ清算ヲ為スニ至リタル前ノ疾病モ亦先取特権ヲ生セシム可キモノナルヤハ明カニ決定スルコトヲ必要トスル一個ノ問題ナリ而シテ之法者ハ本条ノ明文ヲ以テ此問題ヲ決シ動シノ場合ニ於テモ先取特権ヲ生ズルモノト為セリ

債務者ガ死亡シタル場合ニ於テハ医業其他者
病ノ為メニ債権ヲ得タル人モノガ其弁済ヲ受ク
ルコト能ハサルノ恐レアルコト易モ屢々ナリト
雖トモ又債務者ニシテ面倒ニ乗ジ或ハ破産ヲ装シ
又ハ無資力トナリ右ニ掲ケタル人債権者等ガ弁
済ヲ受クルコト能ハサルハ実際ニ於テ屢々其
例ヲ看ル所ニシテ且ツ債務者ガ医師ニ罹ル
債務ヲ怠シテ其弁済ヲ為サル如キモ亦屢々看
ル所ナリ加之ナラズ債務者ニシテ死亡シタル
トキハ医師ハ先取特権ヲ有スルモ是レニ対シ

債務者ハ他人ニ対シテ先取特権ヲ有セシメントスルトキハ医師ヲシテ先取特権ヲ有セシメントスルトキハ決シテ其当ヲ得タルモノト謂フヲ可カラズ

法律ノ目的ト為ス所ノモノハ医師ヲシテ債務者ノ疾病ヲ医スル為メ充分ノ注意ヲ為サシメ又薬剤ヲシテ現金ヲ以テ薬價ヲ弗清スルコトヲ能ハサルモノニ薬餌ヲ與ヘシムルニトヲ奨勵スルニ在リ然ルニ或ル場合ニ於テ此等ノ債權者ニ先取特権ヲ與フルニ止マリ他ノ場合ニ於テ此担保ヲ有セシメサルトキハ到底此奨勵ノ

目的ヲ達スルニト能ハサル可シ就中債務者ガ
四彼シタル場合ニ於テ先取特権アラサルトキ
ハ最モ然リト為ス
前条ノ規定ニ於テ債務者ノ或ル親族ノ葬式費
用ニ宛シ定メタルト類似ノ理由ニ依リ本条ノ
明文モ亦此等ノ親族ノ最後ノ疾病ニ宛シタル
費用ニ付イテモ亦債権者ニ先取特権ヲ與ヘタ
リ然レトモ此親族ニ宛シテハ破産及ビ無資力
ノ場合ヲ除外スルヲ必要トセス何トナレバ此
等ノ親族ハ債務者ノ負担スル所ノモノナルガ

故ニ各々固有ノ財産ヲ有スルモノニ洮ラザレバナリ此故ニ親族ニ冥スル最後ノ疾病トハ債務者ノ死亡又ハ無資力ニ先ダチタル疾病ニシテ親族ガ其疾病ノ為ニ死亡シタルヤ将タ回復シタルヤハ之ヲ区別スルノ必要ナシ

疾病ハ甚ダ永キコトアルヲ以テ是レガ為メ一ノ困難ヲ生ズルコトアルヲ可キ先取特権ニ至テハ唯疾病ノ危篤ニ至リ且ツ死亡ヲシテ猶ホ避クルコト能ハサルモノタラシメタル時期ノミヲ斟酌スルヲ可シトスルモ未タ充分ニ此困難

ヲ捌ケシメントモノト謂フ可カラズ何トナレバ
疾病ノ危篤ナルト否ト死亡ノ避ク可カラサル
ト否トハ之ヲ認定スルコト甚タ困難ニシテ裁
判所ハ此場合ニ於テ惟一ニ医師ノ鑑定ニ由テ
之ヲ決セサル可カラズ然ルニ医師ハ此間隙ニ
付キ自カラ利害ノ関係ヲ有スルモノタルヲ知
ラハ裁判所ハ甚シキニ由テ至当ナル認定ヲ為サ
ンコトヲ望ムハ甚タ難キヲ責ムルモノト謂ハ
サルヲ得ス然シテ此認定ニシテ充分ニ其目的
ヲ達シ得ヘキモノナリトスルモ仍ホ債務者ガ

死亡セズシテ全癒シタル場合ニ於テハ之ヲ以テ先取特権ノ区域ヲ定ムル為メ適用ヲ為スコト能ハサルナリ

此ノ如クナルガ故ニ本条ノ明文ハ更ニ簡便ナル方法ヲ定メタリ即チ長病ノ場合ニ於テハ病者ノ死亡シタルト回復シタルトヲ区別スルコトナク先取特権ハ凡テ最後ノ一年間ノ費用ニ実シテ行ハルヘキモノトス之ヲ換言スレハ債務者ノ死亡若クハ回復ノ時ヲ基礎トシ其以前ニ遡リ一年間ノ費用ニ実シテ先取特権ヲ認ム

可キモノナリ一年以前ノ費用ニ至テハ単ニ
債権存在スルコトヲルモ其推係トシテ先取特
権ヲ與フルコトナシ医師薬剤ノ如キモ亦他ノ
債権者等ガ認見シ得ベキ所ノ範囲外ニ債権ノ
額ヲ大ナラシメ且ニ由テ他ノ債権者等ヲシ
テ測常ノ損害ヲ蒙ラシム可キニ測ラズ
本条末項ノ規定ハ債務者若クハ其親族ガ本条
ニ掲ゲタル費用ヲ生ゼシメタル疾病ノ外ナル
原因ノ為メニ死亡シタル場合ナリ此場合ニ於
テ疾病ノ終リタルハ病者ガ此疾病ノ為ニ死亡

テ疾病ノ終リタルハ病者ガ此疾病ノ為ニ死亡

シタルニ出ラズ又回復シタルニ出ラズ此故ニ
明文ヲ以テ想定セサルトキハ失取特権ヲ認ム
ルコト解釈者ノ疑ヲ生セシム可シ然レトモ之
ヲ道理ニ照スニ医師等高ノ如キハ此ノ如キ高
外ノ事情ノ為ニ損害ヲ蒙ムル可キモノニ出ラ
ザルニ依リ立法者ハ明カニ此場合ニ於テモ本
条ノ先取特権ヲ與ヘタリ
医師ガ病者ノ死亡若クハ回復ニ至ルマデ引續
イテ治療ヲ担当セサリシ場合ハ立法者特ニ之
ヲ想定セスシテ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テモ猶

も先取特権ノ存在スヿヲ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ富裕ナラサルモノヲシテ充分ノ治療ヲ受ケシムル為メ先取特権ヲ以テ医師ヲ奬勵スルコトノ必要ハ常ニ同一ニシテ一旦治療ヲ施スモ直チニ其効験ヲ看ルコト能ハサルカ為メ病者若クハ其親族等カ他ノ医師ノ治療ヲ受クルニ至リタル事情ニ依リ第一ノ医師ヲシテ先取特権ヲ有スルコト能ハサラシムルハ奬勵ノ目的ニ反スルモノナリ

本条ノ規定ヲ設ケンニ当リ此先取特権ノ法律上

ノ原因ニ付キ一言スルコトヲ要ス本条ニ掲ケタル如キ場合ニ於テ医師若クハ其助手ノ如キハ法律上固ヨリ保護ヲ與フル可キモノナリトスルトモ本条ノ先取特権ハ未タ必シモ此等ノモノヽ利益ノ為ニ之ヲ設定シタルニ止ラズ先取特権ノ原因ハ本条ノ場合ニ於テモ亦前ニ掲ケタル第一ノ先取特権并ニ第二ノ先取特権ヲ除キタル他ノ一切ノ先取特権ト同ジク医師ノ治療ニ依リ債務者ノ為メ從ツテ債務者ノ債権者全体ノ為メニ得セシメタル利益ヲ原因トシ

テ立法者ガ此規條ヲ設メタルモノナリ医師ハ
債務者ノ性命ヲ保存シタルノ点ニ於テ恰モ其
債權者等ノ事務管理ヲ為シタルモノト看做サ
ルヽヲ得ベシ

第四則　雇人給料ノ先取特權

第百四十一条

本条ニ掲ケタル雇人給料ノ先取特權ノ法律上
ノ原因モ亦雇人ガ債務者ノ為ニ労役シタルニ
在リト謂ハンヨリモ寧ロ其債權者全体ノ為ニ
労役ヲ為シタルニ在リト謂フヲ以テ至当ト為

原文ノ儘ニテ意義差支ナシ

ス蓋シ債務者ニシテ産人ヲ要セズ自カラ一切ノ用ヲ弁ズルトキハ是レガ為ニ勘カラサル時ヲ費ヤシ從ツテ職業上ノ行為妨害セラルヽコト甚ダ大ニシテ其結果債権者ヲ満足セシムルコト愈ヲ困難ナルベシ故ニ産人ガ債務者ノ為ニ労役ヲ為スハ債務者ノ債権者ノ為ニ甚ダ大ナル利益ヲ得セシムルモノナリ此ノ如キ場合ニ当リ産人ニシテ先取特権ヲ有セサルトキハ産人等ハ給料ノ前拂ヲ受クルニ出ラサレハ資力充分ナラス或ハ疑ハシキモノヽ為ニ労役ヲ

為スコトヲ肯ンゼサルベシ此ニ於テ手前ニ述
ベタル如キ弊害ハ到底避クルコト能ハサルニ
至ル
先取特権ノ原因ハ已ニ之ヲ説明シタルヲ以テ
更ニ其範囲如何ヲ説明スベシ
本条ノ明文ニ依リ先取特権ヲ有スル債人ハ債
務者ノ一身又ハ財産及ビ第百三十九条ノ明文
ヲ以テ規定シタル條件ヲ備具シ即チ債務者ヲ
シテ同居シ且ツ其相当ニ属スル親族ノ一身ノ
為ニ使用セラルヽ債人ナリ蓋シ債人ヲ使用又

為ニ使用セラルヽ庸人ナリ蓋シ庸人ヲ使用ス

ルハ單ニ債務者ノミニ限ルヿヲ能ハズ債務者ノ相當ニシテ且ツ其同居タル親族ニ至ツテモ亦未ノ地位如何ト其年齢トニ從ヒ債務者ガ注意ヲ施シ是レニ附スルニ一人又ハ數人ノ庸人ヲ以テスル如キコト実際ニ於テ是レアルヿヲケレバナリ

債務者ノ庸人ニ至ツテハ随身ノ雇人ト看做スヿヲモノ債務者ノ日常直接ニ身辺ノ用ヲ弁スル庸人ノミニ止マラズ仍ホ料理人馭者馬丁等ノ如キモ亦随身ノ庸人ト謂フヿヲ得ベシ其

財産ニ関スル庶人トシテハ門番及園丁等ヲ
以テ例ト為スコトヲ得ベシ
本条ノ先取特権ハ商業者ノミ工業上ノ庶人ニ
ハ適用スヘキモノニ非ラス
本条ニ規定スル先取特権ノ適用ヲ受ケヘキ労
役ノ如何ニ関シテハ此担保ノ範囲ヲ明定スルコ
トヲ要ス
立法者ハ此点ニ関シ容易ニシテ且ツ至当ナル
計算法ヲ採用セリ即チ立法者ハ右ニ掲ケタル
庶人カ労役ヲ止メタル日ヲ以テ起算点ト為シ

所ニテ其以前ニ溯リ一ケ年間ノ給料ニ對シ

而シテ其以前ニ溯リ一ケ年間ノ給料ニ對シ未
タ弗濟ヲ為サザルモノ有ルトキハ此範囲内ニ
於テノミ先取特権ヲ認メタリ

第五則　日用品供給ノ先取特権

第百四十二条

本条ニ掲ケタル先取特権ノ法律上ノ原因モ亦
前ニ述ベタル所ノ種々ノ先取特権ノ場合ニ於
ケルト同シク債権者ガ他ノ債権者全体ヲシテ
利益ヲ得セシムベキ条件ヲ以テ債務者ノ為ニ
為シタル借用ニ在リトス若シ債務者ニシテ自

已及ビ家族庭人等ノ生活ニ必要ナル日用品ノ為ニ債権者ノ供給ヲ得サルトキハ債務者ハ生計ノ為メ已ムコトヲ得ズ自己ノ職業ニ関係ナキ他ノ用務ノ為ニ動カサルヲ得サル時間ヲ費ヤスニ至ルヿヽ是レ已ニ前条ノ下ニ於テ説明シタルカ如ク債務者ノ一切ノ債権者ノ為ニ甚ダ不利益ノ結果ヲ生スヿヽ可キ所ノコトナリ

第条ノ規定ニ於テ庭人ノ生活ニ必要ナル日用品ト家族ノ生活ニ必要ナル日用品等ハ全ク之ヲ同一位ニ置ケリ蓋シ家族ノ為ニ要スル所ノ

モノト雇人ノ為ニ要スル所ノモノトヲ区別スルコトハ実際ニ於テ殆ンド為シ得ヘカラサル所ノコトナルノミナラズ仍ホ雇人ノ給料ニシテ従令先取特権ノ担保ヲ有スルモ若シ生活ニ必要ナル日用品ヲ得ルノ道アラサルトキハ債務者ハ到底雇人ヲ使用スルコト能ハサル可ケレハナリ

是レニ反シテ前段ニ掲ケタル葬式ノ費用及ビ最後ノ疾病ノ費用等ニ至テハ雇人ノ葬式及ビ疾病ノ費用ヲ以テ家族ノ葬式及ビ疾病ノ費

用ト同一ノ規定ヲ為サズ何トナレバ其費用ハ
一方ニ於テ甚ダ僅少ナル可キノミナラズ且ツ
充分ノ資力ヲ有セザル債主ハ未タ其債人ノ為
ニ此ノ如キ費用ヲ支弗スル可キ正確ナル義務ヲ
有スルモノニ非ラサレバナリ
本条ノ明文ニ由テ先取特権ヲ有スル日用品供
給ニ基ク債権ノ範囲ニ付テハ立法者之ヲ六ケ
月ニ制限シ且ツ其六ケ月ハ必ズ最後ノ六ケ月
間ノ供給ニ限ルモノトス他債務者ニ為シタル
供給ガ小売商人ノ為シタル供給ナルト卸売商

人ノ為シタル供給ナルトハ之ヲ区別スル必要ナシトス

第二款　一般ノ先取特権ノ効力及ビ順位

第百四十三条

本節ニ規定スル先取特権ハ凡テ動産及ビ不動産ニ適用セラルヽモノニシテ要スルニ此担保ノ目的ト為ル所ノモノハ一切ノ財産ナリト雖トモ未タ債権者ノ撰擇ヲ以テ如何ナル財産ニハテモ直チニ此先取特権ヲ行フコトヲ得ヘシ動産ニハテ権利ヲ行フト又動産ニハテ之ヲ行

フト一ニ債権者ノ任意ニ屬スト謂フニ止ラズ
已ニ第百三十四条ノ明文ニ由テ規定シタルガ
如ク一般ノ先取特権ハ唯附随ニテ不動産ニ及
ブモノナル故ニ先ツ必ズ動産ニ付テ之ヲ行フ
ベキモノニシテ動産ノ存セサルトキ若クハ不
充分ナル場合ニ於テ始メテ不動産ニ至シ先取
特権ヲ行フ可キナリ
本条第一項ノ明文ハ此点ニ付テ疑ヒナカラシ
メタリ
若シ実際ニ於テ屢ヽ有ル所ノ如ク先ツ動産ノ

競売ヲ為シ而シテ是レニ由テ得タル代金ノ配当ヲ為シ債権者等ガ完全ナル弁済ヲ受クルコト能ハサルガ故ニ附随ノ権利ヲ行ヒ不動産ニ付テ先取特権ヲ行使スルニ至ルトキハ何等ノ困難ヲ看ルコト莫カルベシ

第第二項ノ明文ハ右ニ掲クル所ト相反シタル場合ヲ想定セルモノナリ蓋シ実際ニ於テハ今特ニ説明スルコトヲ要セサル事情ノ為ニ動産ノ競売及ヒ代償金配当又先取チ一個若クハ数個ノ不動産ノ代償ノ配当ヲ為スコト有リ此

ノ如キ場合ニ於テ動産ノ競売ニ由テ生スル可キ金円ノ若干ナルヤ又是レニ由テ動産ニ属スル先取特権ヲ有スル債権者ニ渡シ弁済ヲ為シ而シテ彼ノ此債権者等ガ請求シ得ベキ所ノ残額若干ナルヤハ未タ確ク知リ得ベカラサルガ故ニ此場合ニ於テ其有スル債権ノ全額ヲ以テ不動産ノ代償ノ配当ニ加入スル為メ債権ヲ提出スルコトヲ許スハ蓋シ已ムヲ得サル所ナリ然レトモ此配当タルヤ全ク条件付キノ配当ニシテ即チ確定ノモノニ非ラズ此ノ如ク假ニ変

命ヲ失フ所以ノモノハ一方ニ於テ和意ノ競爭ガ一般ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ爲ニ充分ナル目的ヲ達セシムルコト能ハサル場合ニ當リ此等ノ債權者ヲシテ擅害ヲ蒙ムラシムルコト甚カラシムル爲メニシテ且ツ他ノ一方ニ於テハ不和意上ニ先取特權若クハ抵當權ヲ有スル他ノ債權者ガ此當ヲ急クルコト能ハサラシメンコトヲ恐レシ所ナリ

此ノ如クナルヲ以テ本条ノ場合ニ於テ先取特權ヲ有スル債權者ハ直チニ其配當ニ由テ帰又

可キ金額ヲ受ケルモノニ止マラズ何トナレバ動産ヲ競売シタル後其代價ハ債權ノ弁済ニ充分ニシテ遂ニ不動産ノ競売金ヲ以テ弁済ヲ受クルノ必要アラサルコト有ル可ケレバナリ此故ニ動産ノ競売ヲ為シタル後猶ホ一般ノ先取特權ヲ有スル債權者ガ是レニ由テ完全ノ弁済ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テノミ始メテ不動産ノ代價中ヨリ残額ノ弁済ヲ受ク可シ

一般ノ先取特權ヲ有スル債權者ガ動産ノ代價ノ配当ヲ受クル為メ必要ナル時期ニ於テ其請

求ヲ失フコトヲ為リタル場合モ亦法律ヲ以テ
想定スルコトヲ要ス此場合ニ於テ右ノ債権者
ハ不動産ノ代償ニ付テ一切ノ権利ヲ失フモノ
ニ非ラズト雖モ猶ホ動産ノ代償ヲ以テ弁済
ヲ受クルコトヲ得ベカリシ金額ニ於テハ動産
ノ代償ヨリ弁済ヲ受クルコトヲ得ズ而シテ此
金額ハ動産ガ競売セラレタルトキニ於テ容易
ニ知ルコトヲ得ベシ何トナレバ其代償ヲ以テ
第一ニ弁済ヲ受クベキモノハ実ニ此債権者ナ
レバナリ

ノ配当ヲ受クル為メ必要ナル時期ニ於テ其請

第四十四条

債務者ノ有スル一切ノ財産即チ動産及ビ不動産ガ一切ノ債権者ヲシテ充分ノ弁済ヲ受ケシムルニ足ラサル場合ニ於テハ一般ノ先取特権ヲ有スル債権者間ニ於テ仍ホ優先ノ順位ヲ定ムルコトヲ要ナリトス

若シ前款ニ定メタル五個ノ一般ノ先取特権ガ債務者ノ財産総ベノ場合ニ現出シタルトキハ此五個ノ先取特権ハ立法者ガ予テ明示シタル順位ニ従ッテ総ベテ之ヲ可シ若シ其一二ガ現

出セサルコトアルモ是ガ為ニ他ノ現出セル先

出セサルコトヲルモ是ガ為ニ他ノ現出セル先取特権間ノ順位ニ至ッテハ何等ノ変更ヲ生ジルコトナカルベシ

又前款ニ掲ゲタル先取特権ハ各々同一ノ性質ヲ有スル数個ノ債権者ニ由テ請求セラルルコトヲ得ベシ此ノ如キ場合ニ於テハ同一ノ先取特権ヲ有スル債権者間ニ於テ優先権ヲ設クベキニ非ラズ故ニ其債権ノ額ニ應シ同一ノ順位ニ於テ平等ノ配当ヲ受ケシムベシ

然リト雖トモ時トシテハ此一般ノ先取特権ガ

動産ニ関スル特別ノ先取特権ト併立スル場合アリ即チ動産物ニ関シテ或ル種類ノ特別ナル先取特権存スル場合ニ於テハ必ズ此併立ヲ来ルニ至ルヲシ然レトモ一般ノ先取特権ト動産ニ関スル特別ノ先取特権トノ相互ノ順位ハ立法者未タ本条ニ於テ之ヲ規定セズ何トナレバ動産ノ特別ノ先取特権ハ未タ其区別ヲ詳ニサレハナリ此ヲ以テ本条ハ之ヲ次節ノ規定ニ譲レリ（第百九十六条）

是レニ反シテ本条ノ明文ハ一般ノ先取特権ト

不動産ニ属スル特別ノ先取特権及ビ一般若クハ特別ノ不動産ニ属スル抵当ト順位ヲ規定セリ然レドモ此不動産ニ属スル先取特権及ビ抵当ハ優先権ノ原因ハ動産ニ属スル特別ノ先取特権ト均シク未タ分ツテ之ヲ説明シタルニトナシ然ルニ仍ホ本条ニ於テ此順位ヲ規定シタルモノハ要スルニ今ニ於テ此順位ノ如何ヲ規定セサルトキハ次ニ掲クル二個ノ章ニ於テ其一部分完ク規定セサル可カラズ是レ理論ノ全部ヲ明カナラシムル為ニ甚ダ宜シキヲ得

サルモノナレバナリ

立法者ハ特別ノ先取特權及ビ特別ノ抵當權ガ一般ノ先取特權ト併立スル場合ニ於テ特別ノ先取特權及ビ抵當權ニ優先ノ利益ヲ與ヘタリ

從令特別ナル担保ノ設定ガ一般ノ先取特權ノ発生ニ後レタル場合ト雖トモ又然リトスル所此ノ如クナルニハ立法者ノ明示スル如ク其点ニ付テ詐偽ノ所為アラサルコトヲ必要トス又凡ソ法律若クハ合意ニ依リ特別ノ財産ヲ限リテ担保ヲ設定シタル場合ニ於テハ其特別担保ハ

一方ニ於テ他ノ事情ノ為ニ増加スルコト能ハサルト同シク他ノ一方ニ於テハ務如セサル他人ノ証書ニ依リ減少セラルルコトアルヿ可カラサルモノナリ

是レニ反シテ動産及ビ不動産ニ関スル一般ノ先取特権ハ不動産ニ関スル一般ノ抵当権ニ對シテ優先権ヲ有スルモノナリ然ルトキハ抵当権ノ発生ガ先取特権ニ先ツチタル場合トモ又タリトスル差シ第四三十八条乃至第百四十二条ノ明文ヲ以テ認メタル一般ノ先取特権ハ通常其

担保スル債権ノ額甚ダ僅少ニシテ之ヲ不動産ノ價額ニ比スルトキハ特別抵当ヲ有スル債権者ノ不利益ヲ来タスコト甚ダ尠カラザルヲ可キノミナラズ猶ホ一般ノ先取特権ハ法律ヲ以テ特別ノ保護ヲ與ヘタルコト最モ必要ナル原因ニ由テ成立スル所ノモノナレバナリ

仍ホ数個ノ不動産ガ一般ノ抵当権ヲ負担スル場合ヲ考慮シ而シテ其各不動産ハ如何ナル方法ニ依リ一般先取特権ノ優先権ヲ負担スヘキヤヲ定ムルニトヲ要ス

此点ニ関スル事則ハ左ノ如シ曰ク不動産ノ各個ハ其債額ノ割合ニ應シ平等ニ一般ノ先取特権ヲ負担スルモノナリ蓋シ不動産ヲ競売スル前後ニ由テ其負担ノ軽重ヲ異ニシ此ノ如キ偶然ナル事情ノ為ニ其間ニ平均ヲ失セシムル如キハ決シテ其宜シキヲ得ザルモノト謂フ可カラサルヘカラス

一切ノ不動産ヲ同時ニ競売スルト順次ニ之ヲ競売スルト其間ニ於テ咎ムヘキ事ニ関シ一ノ差異アルノミ若シ一切ノ不動産ヲ同時ニ競

十ヲ定ムルニトヲ要ス

売シタルトキハ請戻及ビ配当ハ直チニ之ヲ為スコトヲ得ベシ且シニ及シテ順次ニ不動産ヲ売却スル場合ニ於テハ一般ノ先取特権ヲ有スル債権者ハ後ニ至リ何等ノ弁償ヲ受クルコトナク単ニ競売セラレタル不動産ノ便益ニ付キ債権ノ全額ノ弁済ヲ受クルコトヲ得ベシ此トモ此全額ノ弁済ノ為メ不利益ヲ蒙ムリタル抵当債権者ハ之ヲ理由トシテ他ノ不動産ガ競売ニ附セラレタルトキ其代償ニ付キ他ノ債権者等ガ何等ノ配当ヲ受ケサルニ先ダチ弁償

権ヲ行フコトヲ得ベシ而シテ此求償権ハ其債
権者等ガ同一ノ順位ニ於ケル按分ヲ為セサル
場合ニ於テ最モ其利益ヲ為ス可シ

第百四十五条

第二節ノ明文ニ於テ規定スル如ク不動産ノ特
別ノ先取特権ハ登記ニ由リ之ヲ公示スルコト
ヲ必要ト為スト雖トモ一般ノ先取特権ハ
総テ其動産ニ及ブ可キモノナリト雖
モ他ノ債権者ニ対抗スル為メ此ノ如キ法式ヲ
履行スルコトヲ必要トセズ且ツ全ク次ニ掲グ

ル二個ノ理由ニ基ノモノナリ已ニ述ベタル如ク一般ノ先取特權ハ動產及ビ不動產ノ全部ニ及ブモノナリト雖トモ實際ニ於テ之ヲ不動產ニ行使スルハ他動產ノ價額ガ債權ノ弗流ヲ為スニ足ラサル場合ニ止ルモノナリ然ルニ債權者ヲシテ始メヨリ不動產ニ關スル公示ノ法式ヲ履行セシモ他日實際ニ於テハ無用ニ帰スル可キ手數ト費用トヲ要セシムルト決シテ其当ヲ得タルモノト謂フ可カラズ且ツ一般ノ先取特權ヲ有スル種々ノ債權ニ至ツテハ他ノ債權者

等ガ多少ノ注意ヲ為ストキハ常ニ其区別ヲ知リ得ベキモノタルノミナラズ其債権ノ効ニ至ツテモ殆ンド其想像シ得ベキ所ノモノナレバナリ

加之ナラズ右ニ説明スル如ク一般ノ先取特権ニ関シ登記ノ手続ヲ要セサルコトハ恰優先権ノ行使ニ付テノミ効力ヲ有スルモノナリ後ニ至ツテ想定スルガ如ク此種類ノ先取特権ニ基キ不動産ニ関シ追求権ヲ行使スルコトハ登記ヲ経タル場合ニ限ラサレハ為シ得ベカラサル

所ノコトナリ（冬看第百九十条）

第二節　動産ニ係ル特別ノ先取特権

第一款　動産ニ係ル特別ノ先取特権ノ原因及ビ目的

第百四十六条

今条ニ掲ゲタル動産ニ係ル特別ノ先取特権ノ別記ハ賃取債権者ノ先取特権ヲ掲ゲズ蓋シ此先取特権タルヤ已ニ説明シタル如ク合意ニ基クモノニシテ敢テ法律及ビ債権ノ原因ニ基ク所ノモノニ非ラサルナリ

本条ノ明文ニ於テハ特ニ説明ヲ要スルコトハ
ラスト雖トモ唯第百三十七条ノ規定ト本条ト
其編纂上ニ於テ一ノ差異アルコトヲ注意スヘ可
シ蓋百三十七条ノ明文ニ於テ一般ノ先取特権
ヲ列記スルニ当ツテハ先取特権ヲ有スル債権
ヲ示シタルモ本条ニ於テハ特ニ此特権ヲ有スル
債権者ヲ指示セリ蓋シ各種ノ債権ヲ指示スル
為メ適当ナル名称ヲ看出スコト能ハサル以
上ハ各債権者ガ其有スル権利ノ基礎タル契約
ニ由テ有スル所ノ名称ヲ用フルコトヲ定シキ

所ノモノニ限ラサルナリ

ヲ得タルモノナレハナリ

本条ニ掲クル先取特権ハ逐一其詳細ノ規定及ビ従明ヲ看ル可シ而シテ立法者ハ其原因ヲ規定スルト同時ニ其及ブベキ目的ヲ明カニス可シ是レヒニ本款ノ題目ニ由テ知ルコトヲ得ベキ所ニシテ此点ニ於テハ前節第一款ノ規定ト同シカラズ蓋シ前節第一款ノ規定ハ單ニ先取特権ノ原因ヲ規定スルモノニシテ一般ノ先取特権ノ目的如何ニ至シテハ更ニ明文ヲ設クル所アラサレハナリ是レ亦ニ自明ノ理ニシテ一

所アラサレハナリ是レ亦タ自明ノ理ニシテ一

般先取特権ノ目的ハ債務者ノ有スル一切ノ動産及ビ不動産ナルカ故ニ特ニ之ヲ指定スルコトヲ要セズ是レニ反シテ本節ニ掲クル先取特権ハ各々特別ノ目的ヲ有スルモノナレバナリ

第一則　不動産賃貸人ノ先取特権

第百四十七条

不動産賃貸人ノ先取特権ハ家賃ニ於テ其借用ヲ看ルコト煙突ナルト特ニ人ノ区別ヲ為スノ必要アルトニ依リ本法中ニ於テ第一位ヲ有スルモノナリ

本条及ビ次条ハ建物ノ賃貸借ニ関シ第百四十九条ハ耕地ノ賃貸借ニ関スルモノニシテ第百五十条第百五十一条及ビ第百五十二条ハ此二種ノ賃貸借ニ共通ナル規定ヲ掲ゲタルモノナリ

立法者ハ右ニ示シタル二種ノ賃貸借ノ各自ニ付キ尤ノ二点ヲ規定セリ第一先取特権ヲ以テ担保セラレタル賃貸人ノ債権ノ性質及ビ範囲第二賃貸人ガ其先取特権ヲ行フ可キ動産ノ種類是レナリ而シテ此二点ノ説明ヲ為ストキハ立法者ガ賃貸人ニ與ヘタル先取特権ノ法律

上ノ原因如何ヲ了解スルコトヲ得ベク且ツ其

上ノ原因如何ヲ了解スルコトヲ得ベク且ツ其
債権ニ関スルニ此ノ如キ特権ヲ以テスルノ至
当ナルヲ知ルニ足ルベシ
本条ノ場合ニ於ケル先取特権ノ原因タルモノ
ハ債貸人ノ一身ニ帰スベシテ全ク債貸借ノ契
約ナリ故ニ左ノ断定ヲ為スコトヲ得ベシ即チ
本条ノ趣旨ニ基キ先取特権ノ利益ヲ享クル可キ
モノハ唯債貸借契約ニ依リ及ビ債貸借契約ニ
関シ生ジタル債権ニ止マルモノトスル而シテ此
先取特権ノ目的タル物ニ関シテハ左ノ如ク断

定スルコトヲ得ベシ即チ債権人ガ債務ヲ負タル
不動産ニ備ヘ附ケタル物権者ノハ其不動産ヨ
リ收取シタル物権是レナリ
此ノ如ク本条ノ先取特権ノ性質ヲ明カニスル
トキハ容易ニ其理由ヲ説明スルコトヲ得ベシ
本条ノ場合ニ於テモ債権者ガ不動産ノ債務ヲ
負シタルガ故ニ債務ニ便益ヲ與ヘ從ツテ其債
権者全体ノ為ニ便益ヲ與ヘタルコトハ等シ然
ルニ種々ノ場合ニ於ケルト均シク特ニ喋々
ヲ俟タズシテ明カナリトス蓋シ人必ラシモ家

屋ヲ所有スルモノニ非ラズ故ニ或ハ第三債権

屋ヲ所有スルモノニ此ヲズ故ニ或ハ軍ニ住居スル為メ又ハ工業其他ノ職業ヲ為ス為メ必要ナル家屋ハ之ヲ他人ニ賃借スルコトヲ要ス此場合ニ当ツテ建物ノ所有者ガ是レニ許スニ其使用ヲ以テシ之ヲ貸与スルハ甚ダ大ナル便益ヲ供フルモノニシテ家屋ヲ所有セサルモノヽ為メニハ宜ニ必要ナル需用ヲ満タシタルモノト謂フヘシ土地ノ所有者ガ土地ヲ所有セサルモノニ賃貸シテ耕作ヲ為スコトヲ得セシムルモ亦軍ニ従事スル人々ノ債務者ニ一身上ノ便益ヲ

共フルノミナラズ仍ホ農業及ビ工業上ノ殖産ヲ助ケ由テ社会全般ノ為ニ経済上ノ利益ヲ與フルモノナリ

此故ニ耕地ノ使貸借ニ至ルテハ使貸人ガ其土地ヨリ生ジタル果実及ビ産出物ニ付キ先取特権ヲ有スルコトヲ当然ナリ此産出物ハ先ヅ使貸人ヲシテ完全ナル弁済ヲ受ケシメタル後ニ此ラサレバ他ノ使権者等ノ共同ノ担保ト為ルヲキモノニ此ラズ

右ニ掲ゲタル二種ノ使貸借就中建物ノ使貸借

ノ場合ニ於テ使貸人ハ法律上一種ノ動産ノ動

ノ場合ニ於テ債權人ハ法律上一種ノ特殊ノ動産權ニ依リ債務人ガ家用商工業用ノ為メ建物内ニ備ヘ付ケタル動産物權及ビ農業用ノ為メ其土地ニ備ヘタル物權ノ總テ債權者ト看做サルヽコトヲ得ベシ

本条第一項ノ規定ハ建物ノ債權人ニ屬スル先取特權ノ目的ヲ指示セリ

第二項ノ明文ハ本条ノ場合ニ於テ法ニ掲ゲタル条則ノ一個ノ適用ヲ示シタルモノナリ即チ動産ノ占有ハ完全ナル權原ト同一ナル價値ヲ有

スト ノ系則是レナリ（参看財産編第三百四十六条及ビ證據編第百四十四条）若シ合意上ノ動産質ノ場合ニシテ質物ト為シタル物機ガ債務者ノ所有ニ属セサルトキハ義務ナル債権者ハ猶ホ完全ナル質権ヲ有スル可キモノナリ本条ノ場合ニ於テルガ如ク黙示ノ質権ノ場合ニ於テモ亦是レト異ナル可キニ非ラズ立法者ハ特ニ注意ヲ為シ貸人ノ義務ハ動産ガ債貸シタル不動産ニ特チ来タサレタル当時ニ於テ有スルコトヲ必要トセズ迄シトモ貸人ガ此動産物ノ

存在ヲ知リタル当時ニ於テ義務ナルコトヲ必要

存在ヲ知リタル当時ニ於テ義務イルコト必要ナル旨ヲ明カニセリ

黙示ノ動産質ノ理論ヲシテ完全ナラシムルニハ婦ヲ借人ノ将来タシタル物件ガ建物内ニ在ツテ表見ノモノナルコト若クハ普通ノ貸借人ガ多少驚シキ数量ヲ以テ有スルガ如ク其性質上借貸人ニ由テ移想シ得ラルヘキモノナルコトヲ要スル故ツテ之ニ在ハ現金珠玉及ヒ宝石ヲ以テ此黙示ノ動産質以外ニ置ケリ且ツ此例外タルヤ単ニ債務者及ヒ其家族ノ一身ノ使

用ニ供セラレタル珠玉及ビ宝石ニ止マルモノナリ故ニ此ノ如キ物権ト雖トモ若シ債借人ノ営業上ノ商品ナル場合ニ於テハ債貸人ノ先取特権ハ仍ホ此等ノ物権ニ及ブモノナリ債権ヲ生ズル条件ノ如キハ敢テ無記名ノモノト雖トモ又失取特権ノ目的タラズ何トナレバ債貸人ハ此ノ如キ財産ニ付テ記ス所ナキハ猶ホ其条件ノ代表ナル金銭ニ至ルト同一ナレバナリ

又債貸セル家屋内ニ在スベキ書類図面等ノ如キモノニ至ツテハ債貸人ノ貨物タル可キニ机

ラズ蓋シ此ノ如キ物権ハ債借人ノ家用商工業

ラズ蓋シ此ノ如キ物椅ハ使借人ノ家用商工業用ノ為メニ備ヘ付ケタル所ノモノニ非ラザルベカラリ（第一項）之ヲ要スルニ此ノ如キ物椅ハ時トシテ使借人ノ工業ノ用ニ供セラルヽコト有ルヲ可シト雖トモ仍ホ唯間接ニ然ルノミニシテ未タ其工業ノ目的ナリト謂フコトヲ得サルナリ

是レニ反シテ美術品銅器漆器陶器類書籍等ノ如キハ使賃人ノ動産質ノ担保ヲ為スモノナリ蓋シ此等ノ物椅ニ至ツテハ使賃ニタル場所

ニ備ヘタケメリト認フコトヲ得ベシ是レ宜ニ
次条ニ於テ立法者ガ使用スル所ノ言語ナリ」
第百四十八条
立法者ハ軍ニ供貸人ヲシテ黙示ノ合意ニ依リ
供貸セン場合ニ備ヘメル物件ノ質取債権者ト
看做スコトヲ得セシムルニ止マラシテ仍ホ
是レニ許スニ債借人ガ此担保ヲ提供スルコト
トヲ請求スル権利ヲ以テセリ固ヨリ貸人ガ
之ヲ請求スルニ当ツテハ将来供貸借契約期間
ノ全部ニ對スル借賃ニ均シキ保証ヲ請求スル

能ハサルハ勿論ナリト雖トモ仍ホ現在ノ一期及ビ次期ノ借債ニ相当スル債額ノ担保ヲ要求スルコトヲ許セリ

若シ債借人ニシテ此ニ期ニ對スル充分ノ担保ヲ供スルコト能ハズシテ單ニ其一期ニ對シテノミ担保ヲ供シタルトキハ債借人ハ豫メ一期ノ借債ヲ弗済スルコトヲ要スル而シテ是レ其當時歳ノミニ於テ然ルノミナラズ常ニ一期ノ借債ハ前拂ヲ為スコトヲ要スル可シ若シ債借人ニシテ之ヲ為サザルトキハ債貸人ハ義務ノ不履行

ノ全部ニ對スル借債ニ均シキ債額ヲ請求スル

ヲ理由トシテ債権借契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ベシ

本条并ニ項ニ規定スル所ハ当初債権借人ガ充分ノ動産物ヲ債借シタル場合ニ備ヘタル後事ニ其物権ノ一部ヲ持チ去リタル場合ナリ此ノ如キ場合ニ於テ主法者ハ債権人ニ許スニ債借人ヲシテ再ビ其物権ヲ持チ来タラシムルノ権利ヲ以テセリ然レトモ此権利ハ二個ノ条件ニ従フコトヲ要ス并一債借人ガ債権人ノ担保タル動産物ノ一部ヲ持去リタルカ為メ其担保ヲシ

テ不充分ナルニ至ラシメタルコトヲ要スル

動産物ノ一部ヲ持去リタルカ為メ其担保ヲシ

テ不充分ナルニ至ラシメタルコトヲ要スル然ル
ニ実際ニ於テハ然ラサルコト屢々ナル可シ蓋
シ債借人ガ其物権ニ付キ仍ホ権利ヲ有スルコ
トヲ必要トス又債貸人ガ右ノ権利ヲ行フコトハ
此債借人ノ権利ヲ以テ限度ト為ス此故ニ債借
人ガ他人ニ譲渡ヲ為シタル場合ニ於テハ債貸
人ハ之ヲ無効ト為スコトヲ得ズ又従令債借人
ハ其権利ヲ他人ニ譲渡シタルニ止ラズトスル
モ若シ其物権ヲ明示若クハ黙示ノ合意ニ依リ
他ノ債権者ノ為メニ動産質ト為シタル場合ニ

於テハ債貸人ハ此債権者ノ権利ヲ害シテ動産物ヲ回ニ復セシムルコトヲ得サルベシ

然レトモ債借人ガ債貸人ノ権利ヲ詐害シテ動産物ヲモ取去リタル場合ヲ想定スルコトヲ要ス此ノ如キ場合ニ於テハ債貸人ハ普通ノ系則ニ従ヒ第三者ニ對シテ此行為ノ廃罷ヲ請求スルコトヲ得ベシ然ルニ此廃罷ノコトタルヤ債借人ノ為シタル行為ガ有償ノモノナルト無償ノモノナルトヲ問ハス債貸人ノ善意ナルト悪意ナルトニ従ツテ種々ノ条件ヲ要スルモノナルガ故

ニ立法者ハ此点ニ関シ財産篇第三百四十一条以下ノ規定ニ倣シリ

本条ハ項ノ規定ハ他ノ事項ニ関シ第百三十三条ノ規定ニ倣シリ蓋シ債権人ガ債務人ノ為シタル行為ヲ廃罷シ得ルト否トニ拘ラズ其有之ル方法ハ単ニ廃罷ノ訴権ノミニ止マルモノニ非ラズ若シ債権人ニシテ債務人ノ為シタル行為ヲ廃罷スルコトナク第三者ヨリ債務人ニ代位訴ヲ可キ剣銭ノ代償ヲ直チニ受領セントスル場合ニ於テハ之ヲ請求スル権利ヲ有スルニシテ此事

タルヤ実際上最モ簡便ナル方法ナルベシ

第百三十三条ノ規定ヲ適用スルコトハ各種ノ先取特権ニ付イテ一々之ヲ明記セズ然レトモ先取特権ガ現物ニ付イテ直接ニ行使セラルヽコトヲ得ズ而シテ其物権ハ単純ニ消滅シタルニ訓ラサル場合ニ於テハ先取特権ノ種類如何ニ係ハラズ凡テ理論ヲ以テ此規定ヲ適用スヘキモノナリ

第百四十九条

本条ニ規定シタル所ハ耕地ノ賃借ニシテ其契約

ノ性質ガ普通ノ賃貸借ナルト略々永賃借ナル

ノ性質ガ普通ノ賃貸借ナルト將タ永賃借ナル
トハ之ヲ区別スルコトヲ要セズ耕地ノ賃貸借
ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ有スル默示ノ動産抵
ノ目的タル物件ハ之ヲ庫物ノ賃貸借ノ場合ニ
比スレバ甚ダ多数ナルベシ然リト雖トモ是レ
ガ為メニ其担保ハ甚ダ大ナリト謂フコトヲ得
ズ何トナレバ此等ノ物件ハ通常其價額甚ダ小
ナル所ノモノナレバナリ
土地ノ賃貸人ノ有スル先取特権ノ目的タル物
ハ左ノ如シ第一賃借人又ハ其家族等ノ使用ノ

為メ居宅内ニ備ヘタル動産物樹并ニ耕作ニ供スル家畜其他ノ器具并ニ農業用就中土地ノ産物ヲシテ価額ヲ増加セシムル為メ之ヲ精製スルニ借スル物樹并ニ土地ニ附着スルト否トヲ問ハズ凡テ使借シタル土地ヨリ生ジタル収獲其他一切ノ果実及ビ産出物是レナリ

右ニ掲ゲタル種々ノ規定ハ山林及ビ池沼ノ使貸借ニモ亦適用セラルベシ蓋シ此等ノ使貸借ノ場合ニ於テハ耕地ノ賃使借ニ比スレバ使用スベキ器具及ビ産物等ニ至ツテハ同一ナラザル可シト雖トモ法律上先再特権ノ範囲ヲ定ム

ルヿシト雖トモ法律上先取特権ノ範囲ヲ定ムルニ当ツテハ全ク類似ノ理由アルコトハ特ニ説明ヲ用ヰズシテ明カナリ

今果小作ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ権利ハ之ヲ一個ノ債権ト謂ハンヨリモ寧ロ共有者ノ権利ナリトス故ニ賃貸人ハ此権利ニ由テ他ノ債権者ト之ヲ分ツコトヲ受カルヽシ而シテ土地ノ果実ガ未タ分果小作人ノ手ヨリ他人ノ手ニ移転セサル場合ニ於テハ最モ容易ニ元分ナル結果ヲ看ルコトヲ得ベシ

又セキ器具及ビ産物等ニ至ツテハ同一ナラザ

第百五十条

賃貸借ハ通常ノモノナルト永賃借ナルトヲ問ハズ之ヲ他人ニ譲渡スコトヲ得ベシ或ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ベシ蓋シ当事者ガ特ニ此権能ヲ禁セサル以上ハ法律上当然賃借人ノ為シ得ベキ所ノコトナレバナリ是レニ反シテ分果耕作ノ場合ニ於テハ賃貸人ガ此点ニ付キ特ニ承諾ヲ為シタル場合ニ非ラサレバ賃借人ハ其権利ヲ譲渡シ若クハ轉貸スルコトヲ得ズ（参看第百三十三条）熟レノ場合ニ於テモ賃貸人ノ動

産筆ノ権利ハ賃貸シタル場所ニ備ヘタル動産物ニ付イテ行ハルヽモノナリ従令賃貸人ガ其動産物ノ譲受人若クハ轉借人ニ属スルコトヲ知ルトキト雖トモ亦然リト為ス蓋シ譲受人若クハ轉借人ハ豫シメ此事ヲ期スルヲ得ベキガ故ニ決シテ是レニ對シテ故障ヲ為スコト能ハザルナリ如之ナラズ譲受人若クハ轉借人ニシテ充分ノ注意ヲ為ストキハ借賃若クハ譲受ケノ代價ハ第一ノ賃貸人ニ對シテ弗而ヲ為ス可キナリ此ノ如クナルトキハ決シテ自己ノ動産

物ハ先取特権ヲ負担スルハ如キ憂ヘナカルヘシ

賃貸人ハ譲受人若クハ轉借人カ其資格ヲ以テ

第一ノ賃借人ニ對シ乖而スヘキ金額ニ付イテ

先取特権ヲ有スルモノナリ何トナレハ此金額

メルヤ一方ニ於テ債借物ヨリ生シタル法定ノ

果実ノミナラス仍ホ他ノ一方ニ於テハ本条ノ

規定ニ從ヒ第百三十三条ノ明文ニ由テ先取特

権ヲ及ボスコトヲ得ヘキ金額ナレハナリ

第百五十一条

賃貸人ハ如何ナル期間ノ借賃ニ付キ先取特権

ヲ以テ賃借人ノ財産ノ清算ニ加入スルコトヲ得ベキヤハ之法者ガ明定スルコトヲ要スル所ナリ而シテ法律ハ債権人ノ先取特権ヲ三期ノ借賃ニ制限セリ即チ現在ノ一期及ビ其前後ノ二期ノ借賃是レナリ然レドモ此ノ如クナルニハ已ニ弁済期限ノ到リタル借賃若クハ将来ニ於テ弁済スベキ借賃ニ付キ賃借人ガ未ダ弁済ヲ為サザリシコトヲ必要トス又若シ此弁済ヲ為シタル証拠アルトキハ其他ノ部分ニ對シテノミ先取特権ヲ有セシムルモノナルガ故ニ其

範囲ハ法ツテ小ナル可キナリ

貸借人ノ一切ノ財産ヲ清算スルニ当ツテヤ債貸人ハ貸貸借契約ニ基ク他ノ債権ヲ行使スルコトヲ得ベシ且ツ貸貸人ニシテ若シ自己ノ所有物ノ收益ヲ回復セントスルトキハ使貸借ノ解除ヲ求メ同時ニ損害ノ賠償ヲ求ムル人ノ権利ヲ有スル可キナリ

第百五十二条

一方ニ於テ使貸人ハ使貸借ノ解除ヲ請求スル権利ヲ有スルトモ使貸借ハ單ニ使借人ノ為

メニ便益ヲ與フルノミナラズ仍ホ其結果トシテ賃借人ノ債権者等ノ為メニ甚タ便益ナルモノナルガ故ニ債権者等ハ債貸人ノ請求スル賃貸借ノ解除ニ反對シ而シテ賃借権ヲ他人ニ譲渡シ若クハ賃借物ヲ轉貸ヲ為ス権能ヲ有スルモノナリ然リト雖トモ債権者等ガ此ノ如キ権能ヲ行使スルニハ賃貸人ニ對シ將来所スベキ一切ノ義務ノ為メ充分ナル担保ヲ與フルコトヲ必要トス

此担保ハ譲渡若クハ轉貸ノ権能ニ基シ賃借人

ノ為メニ何等ノ規定ヲモ存セサル場合ニ於テノミ独リ其適用ヲ看ルモノニ非ラスシテ仍ホ此点ニ付キ債権人ガ禁止ヲ為シタル場合ニ於テモ均シク債借人ノ債権者ハ此権能ヲ有スルヿヲキナリ

然レトモ此規定ハ例事小作ノ場合ニ適用スルニトヲ得ズ何トナレバ此契約タルヤ元来一個ノ会社ノ性質ヲ有スルモノニシテ全ク債借人ノ技能ト廉直トヲ以テ当事者ノ着眼ト為シタルモノナレバナリ故ニ此場合ニ於テモ仍ホ債

借人ノ債権者ガ債借権ノ譲渡若クハ轉貸ヲ為

借人ノ債権者ガ債借権ノ譲渡若クハ轉貸ヲ為
スノ権利ヲ有スルニハ出初ヨリ此権能ガ債借
人ニ與ヘラレタル場合ナルコトヲ必要トス（第
財産編第三十四条）

第二則　種子及ビ肥料ノ供給者ノ失取特権

第百五十三条

種子及ビ肥料ヲ供給シタルモノモ又土地ヲ貸
與シタルモノト同シク收穫ノ産出ニ與ツテ力
アルコトヲ認ナリ此故ニ此ノ如キ債権者ニ與
フルニ其收獲ニ係ル先取特権ヲ以テスルハ其

ルモノナレバナリ故ニ此場合ニ於テモ仍ホ債

当ヲ得タルモノナリトスル所ニテ此先取特権ハ土地ノ使貸人ノ先取特権ニ先ツ地位ヲ有スヘキコトハ後ニ至ツテ之ヲ説明スヘシ

本邦ニ於テハ養蚕ノ事業甚タ重要ノモノナルガ故ニ立法者ハ特ニ蚕種及ビ蚕ノ飼養ニ供スル桑葉ノ供給ニ注シテ明文ノ規定ヲ為セリ実際ニ於テ資力甚タ寡ナキモノガ自ラ桑樹ヲ植ヱ人コトナリシテ少量ノ蚕ヲ飼養シ以テ老幼婦女ノ労役ヲ利用シ生計ノ補助ヲ為スコト屢々看ル所ナリ此ノ如キモノハ日々桑葉ノ代

債ヲ弗済シ又ハ一時ニ桑樹ノ借賃ヲ弗済スル
コト甚タ困難ナル所ナリ故ニ現金ノ弗済ヲ要
クルコトナクシテ此ノ如キモノニ桑葉ヲ供給
シタルモノニ其フルニ生糸ノ收獲ニ係ル先取
特権ヲ與ヘテ以テ之ヲ奬勵スルコト其宜シキ
ヲ得タルモノトス
此ノ如クナラスシテ若シ盛大ナル養蚕ノ業ヲ
為シ其規模甚タ宏大ナルモノニ至ツテモ仍ホ
此先取特権ハ甚タ有益ノモノタル可シ何トナ
レハ此ノ如キ場合ニ於テ養蚕ノ費用ハ甚タ大

屢々看ル所ナリ此ノ如キモノハ日々桑葉ノ代

ニシテ收穫ニ先タチ悉皆是レガ糸流ヲ為スヽ
飼養者ノ甚タ難シトスル所ノコトナレバナリ

第三則　農業稼人及ビ工業職工ノ先取特權

第百五十四条

土地ノ利用ヲ為スニハ未タ土地ノ所有者カ土
地ノ賃貸ヲ為シ而シテ他ノ人々カ種子及ビ肥
料ノ供給ヲ為シ而シテ其債權ノ担保トシテ先
取特權ヲ有スルノミヲ以テ足レリセズ若シ農
業稼人等ニシテ土地ヲ耕ヤシ若クハ農業ニ付
キ為シタル労働ノ給料ヲ受クル為メ充分ナル

担保ヲ有セサルトキハ土地ノ賃貸人モ必要ナ

キ為シメン労働ノ給料ヲ受クル為メ充分ナル

担保ヲ有セサルトキハ土地ノ賃貸人モ必要ナル稼人ヲ有スルコト能ハサルベシ此故ニ立法者ハ此ノ如キ稼人ノ一ケ年ノ給料ノ担保トシテ其労役シタル土地ノ産物ニ付キ先取特権ヲ與ヘタリ

実際ニ付イテ之ヲ考フルニ右ニ掲クル如キ稼人ガ一ケ年ノ給料全額ヲ全ク受取ラサル如キコトハ是レアラサルベシ何トナレバ稼人等ハ元来資力アルモノニ非ラサルヲ以テ一ケ年全ク給料ヲ受領スルコトナクシテ産主ノ為メニ

労役ニハ如キコトハ殆ンド是レアラサル所ナ
レバナリ

立法者ハ已ニ第百四十一条ノ明文ヲ以テ雇人
ノ為メニ先取特権ヲ規定シタルガ故ニ此種類
ノ雇人ハ之ヲ本条ノ明文以外ニ置ケリ
若シ農業雇人ニ此ヲ及ボシテ工業ノ職工ナル場
合ニ於テハ其有ニハ先取特権ハ其歳ノ給料中
最後ノ三ケ月分ニ止マルモノトス而シテ其理
由トスル所ハ左ノ如シ曰ク工業ノ產物ハ殆ン
ド一年間継続セルモノナルガ故ニ職工ハ雇ヒ

提ケタル農業稼人ノ如ク一ヶ年間全ク信用ヲ以テ他人ノ為メニ労役ニ従ヒタルガ如キ必要アラサルハナリ

第四則　動産物保存者ノ先取特権

第四十五条

此先取特権ハ全ク保存者ガ債務者及ビ其債権者等ノ為メニ為シタル労役ヲ以テ基礎ト為スモノタルニト明カナリ何トナレバ動産物ノ保存者ガ有スル債権ハ全ク其動産物ノ修繕及ビ保存ノ為メニ費ヤシタル費用ニシテ此費用ハ

ルヤ実ニ他ノ債権者等ヲシテ共同ノ担保ヲ保全スルコトヲ得セシメタル所ノモノナリ故ニ此債権ハ全ク他ノ債権者等ノ利益ノ為メニ生ジタルモノナルガ故ニ此保存者ヲシテ先取特権ヲ有セシムルハ其当ヲ得タリト為ス

立法者ハ本条ノ場合ニ於テ修繕及ビ保存ヲ以テ同一位ニ置ケリ何トナレバ修繕ノ費為タル

ヤ屢々保存ノ費為ト相接近スルモノニシテ且ツ物件ノ滅失ヲ禦ガ最良ノ方法ナレバナリ然レトモ本条ニ掲ケタル先取特権ハ単ニ物件ノ

改良ヲ為シタルモノニ有セシムルコトナシ何トナレバ改良ハ保存ノ如ク必要ナルモノニ非ラサルノミナラズ個人是レガ為メニ先取特権ヲ生セシムベキモノトスルモ此先取特権ハ軍ニ改良ニ由テ生ジタル増價ニ付イテノミ存シ得ベキモノタルニ過キサルベナリ況ンヤ此ノ如クナルトキハ其物件ノ評價ノ為メ多少ノ費用ヲ要シ而シテ其費用ハ却テ本来ノ利害関係ニ比シテ甚タ大ナルニト不ルベシ

是レニ反シテ不動産物ニ関シテハ改良ノ場合

ニ於テ特別ノ先取特権アルヲ看ルベシ然レドモ此場合ニ於テハ辞償ノ方法モ充分ノ注意ヲ以テ之ヲ定メ而シテ動産物ノ場合ニ比スレバ多少ノ費用ヲ要スルモ決シテ本来ノ利害関係ニ對シ未ダ過当ノモノナリト謂フコトヲ得ス

第九十二条ノ法文ニ由テ考フレバ他人ノモノヲ保存スル為メ費用ヲ投ジタルモノハ其物件ニ付テ留置権ヲ行フコトヲ得ベシ然レニ留置権ハ未ダ其留置スル物件ノ償還ニ付キ先取特権ヲ有セシムルモノニ非ラズ本条ノ場合ニ於

ヲハ留置權ト先取特權トハ同時ニ存立スルモノナリ而シテ立法者ハ特ニ兩個ノ權利ガ全ク獨立ノモノナルコトヲ明カニセリ故ニ債權者ニシテ物件ヲ留置スルコトヲ爲メリシトキト雖トモ是レガ爲ニ決シテ其物ノ價額ニ付キ先取特權ノ行使ヲ爲スノ權利ヲ失フコトナシ

第一條第一項ノ明文ハ主トシテ有体物ヲ目的トシタルモノナリ是レニ反シテ第二項ハ債務者ノ有スル權利ヲ裁判所ニ主張シ若クハ裁判外ノ行爲ニ由テ行使スベキトキニ當リ此權利ヲ

權ヲ有セシムルモノニ止ラズ第一條ノ場合ニ於

保存ニル為メ他人ガ費用ヲ投ジタル場合ヲ想定セルモノナリ本条ノ場合ニ於ケル債権者ノ為メニ債務者ノ為メニ為シタルモノニシテ逆ツテ債務者ノ債権者全体ノ利益ニ帰スルモノナリトスルトモ此場合ニ於ケル先取特権ハ第百三十八条ニ規定シタル訴訟費用ニ関スル先取特権ノ如ク一般ノモノニ非ラズ即チ本条ノ場合ニ於テ債権者ノ保存シタル所ノモノハ第百三十八条ノ場合ニ於ケルガ如ク債務者ノ資産全部ニ非ラズシテ唯其一部分ニ過キス僅カニ

一個ノ物件ヲ保存シタルニ過キズ此ヲ以テ是
レガ為メニ生ズル先取特権モ亦特ニ此物件ニ
止マラサル可カラズ此点ニ関シテハ亦ニ第百
三十八条第二項ノ明文ヲ以テ確乎タル本条ノ規
定アルコトヲ示セリ

第五則　動産物売主ノ先取特権

第百五十六条

凡ソ物ノ売主ハ代價ノ未済ヲ為クルノ条件ヲ
以テ債務者タル売主ノ資産ニ一個ノ物件ヲ加
ヘシメタルモノナリ故ニ若シ売主ガ此代價

ノ弗済ヲ受クルコト能ハザルトキニ当リ買主
ノ他ノ一切ノ債権者等ト共ニ平等ノ分配ヲ為
スヿ可キモノトセバ買主ノ債権者等ハ売主ヲ害
シテ又当ノ利得ヲ得ルモノト謂フベシ此故ニ
本条ノ場合ニ於ケル先取特権モ亦其正当ナル
基礎トスル所ハ他ノ先取特権ト均シク債権者
ガ他ノ凡テノ債権者等ニ為シタル利益ニ在リ
トスル然レトモ売主ノ先取特権モ亦他ノ特別ノ
先取特権ト均シク其基礎トスル利益ハ特ニ定
マリタル一個ノ物件ニ止マルモノナルガ故ニ

此物件ヲ以テ先取特権ノ行ハル可キ限度ト為サザル可カラズ

然レトモ債主ヲシテ先取特権ヲ有セシムルニハ未タ債務ノ契約ヲ為スニ当リ代償ノ弗流ノ為メ猶豫ノ期限ヲ與ヘタルト否トヲ問フコトヲ要セズ固ヨリ債主ニシテ期限ノ猶豫ヲ與ヘザル場合ニ於テハ代償ノ弗流ヲ生クルマデ債却シタル物件ノ留置権ヲ有スベシ

財産取得婦

第四十七条 然レトモ留置権ト先取特権トハ次条ニ於テ明記スルガ如ク全ク独立セル二個ノ

マリタル一個ノ物件ニ止マルモノナルガ故ニ

権利ナリ

立法者ハ猶渡ノ行為ガ金円ヲ以テ価額ノ不足ヲ補フタル交換ナル場合ヲ想定セリ即チ此ノ如キ行為ハ交換ト賃貸ト相混シタルモノナリ此場合ニ於テハ如何ナル事情アルニ係ハラズ又補足トシテ授受シタル金円ノ甚ダ小ナルニモ拘ラズ之ヲ目ケタル譲渡人ハ仍ホ其譲渡シタル物件ニ付キ補足ノ金額ノ担保トシテ先取特権ヲ有スベキモノナリト断ズルコト甚ダ妥当ナラズトモ又如何ナル場合ニ於テモ補

足金ノ債權ニ付テハ先取特權ヲ有スルモノ
ニ非ルカト云ヒ又之ヲ認ムベキモノ
ニ非ルカト云フ故ニ之法律ハ此場合ニ於テハ超未屬公吏
ニ要スル費用ノ第一順位ニ置キ即チ主ガ九モノ
ハ他ノ總テモノヲ併ハスト云フ第一順位ニ置キ此故
ニ若シ補足金ノ額ガ拍金ニ達スルモノヽ價額ノ
半額以上ニ及ブトキハ債權人ハ補足金ヲ拒絶ス
為メ一般賣主ノ有スル先取特權ヲ有スル
第五十七条
動產物ノ賣主ニ屬スル先取特權ハ其ノ第三取

得者ニ對シテ追求ノ權利ヲ與フルモノニ非ラズ從令第三取得者ガ第一ノ賣主ニ對シ代價ノ未タ弗濟セラサルコトヲ知リタル場合ト雖トモ正然リト為ス何トナレバ第三取得者ニシテ此ノ如キ事情ヲ知得セリトスルモ是レガ為メニ未ダ惡意ノ占有者ナリト謂フコトヲ得ズ蓋シ第三取得者ハ此事情ヲ知ルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ第一ノ賣主ト買主トノ間ニ於テ特別ノ約束ヲ為セルコトヲ又ハ買主ガ充分ニ資力アルコトヲ想像シ得ベケレバナリ此故ニ代價

ノ弁済ヲ受ケサル賣主ガ第三取得者ニ對シテ請求ヲ為シ得ルニハ第二ノ譲渡ガ第一ノ賣主ノ権利ノ詐害ヲ為サレ且ツ財産編第三百四十二条ノ適用ヲ為スヘキ場合ナルコトヲ必要トス

賣主ガ買受ケタル物件ノ轉賣ヲ為シタル場合ニ於テ賣主ハ第三取得者ガ其ノ弁済セサル代價ヲ差押フル権利ヲ有スベシ且ツ第三十三条ノ適用ニ依リ他ノ債権者等ニ先ダチテ先取特権ヲ以テ之ヲ受領スルコトヲ得ベシ

アルコトヲ想像シ得ベケレバナリ此故ニ代價

賣渡シタル物件ハ買主ノ手ニ存スルモ買主ノ
為メニ不動産ト為サレタルトキハ（参看財産編
第九条）先取特権ハ仍ホ依然トシテ存在スルモ
ノナリ然レトモ其物件ハ既ニ損壊スルコトナクシ
テ取除クコトヲ得ベキトキニ限ルモノトス
若シ賣渡シタル物件ガ全ク変質シテ造カニ其
異動ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テハ如何ナ
ル事情アルニ係ラズ賣主ハ先取特権ヲ行フ
トヲ得サルモノトス

第百五十八条

已ニ説明シタル如ク賣主ニ屬スル先取特權ハ其有スル留置ノ權利及ビ解除ノ權利ト全ク独立セル所ノモノナリ然レトモ賣主ハ此独立セル三個ノ權利ヲ同時ニ有スルコトヲ得ベシトモ是レトモ之レガ行使ニ至ツテハ必ズシモ同時ニ為スコトヲ得サルモノナリ之ヲ要スルニ三個ノ權利ハ必ズ併行シテ存スルモノナレドモ其行使ハ孰レノ場合ニ於テモ併行スルコトヲ得ベキモノニ非ラズ

賣買ノ契約ヲ為スニ当リ代價弁済ノ歩メ期限

ヲ約セサルカ故ニ賣主ニシテ其所有ニ至ルマデ先ツ賣渡物件ノ留置ヲ為シタル場合ニ於テハ賣主ハ是レニ尋イデ代價ノ弁済ヲ受クル為メ其物件ヲ競賣ニ附セシメ由テ先取特權ヲ行フコトヲ得ベシ然レトモ此場合ニ於テハ賣主ハ全ク解除ノ權利ヲ失フモノナリ若シ賣買ノ書初ニ於テ賣主直チニ留置ノ權利ヲ公示セザル場合ニ於テハ賣主ハ此權利ヲ失フベシ然レトモ仍ホ先取特權ヲ行使スルト解除ノ權利ヲ行使スルトハ其撰擇ヲ以テ為シ得ベキ所ナリ

行使スルトハ其撰擇ヲ以テ為シ得ベキ所ナリ

トス故ニ此場合ニ於テ売主若シ該売代金ヲ以テ他ノ債権者等ニ先ダチ弁済ヲ受ケントト欲セバ是レガ為メニ売買ノ解除ヲ為スノ権利ハ当然失フベシ是レニ反シテ売買ノ解除ヲ為ストキハ一旦売渡シタル物件ハ再ビ自己ノ財産ニ帰スベシ此場合ニ於テ売主ハ唯買主ニ對シテ損害ノ賠償ヲ求ムル権利アルニ止マリ此債権ニ付イテハ先取特権ヲ有スルモノニ非ラズ蓋シ売渡シタル物件ハ已ニ自己ノ財産ニ帰シタルガ故ニ是レニ実ニ先取特権ヲ有シ得ベキ

ニ訴フヿヲ又賣主ノ他ノ財産ニ付イテ先取特権ヲ有シ得ベキニ訴フヿヲ何トナレバ他ノ財産ニ付イテハ賣主ハ未ダ賣主ノ為メニ何等ノ弁済ヲモ受ヘタルモノニ訴フサレバナリ

第六則　旅宿主人ノ先取特権

第百五十九条

本条ノ先取特権及ビ次条以下ニ掲クル数個ノ先取特権ハ二個ノ理由ヲ以テ其正当ナルコトヲ説明スルヲ得ベシ第一債務者ノ為メニ與ヘタル便益及ビ默示ノ動産質是レナリ

若シ旅宿ノ主人ニシテ本条ニ掲ケタルガ如キ先取特権ヲ有セサルトキハ元来旅客ニ對シ一面

若シ旅店ノ主人ニシテ本条ニ掲ケタル如キ先
取特権ヲ有セサルトキハ元来旅客ニ對シ一面
ノ識アルモノニ訓ラサルカ故ニ是レカ為メ信
用ヲ以テ旅役ヲ為スニト能ハサルヘシ其結果
旅客ノ旅店ニ趨キテ第一ニ為ス可キ所ノモノト
ハ金銭ヲ與フルノ事ニ在ルヘシ然リト雖ト
モ此ノ如クナルトキハ旅店ト旅客トノ関係ヲ
シテ益々不信用ナラシムルモノニシテ其実係
タルヤ従令一夕若クハ一日ニ止マルト雖トモ
仮令親密ニシテ且ツ懇切ナルヲ希望スヘキ所

ノモノナリ

此ノ如クナルガ故ニ往時羅馬ノ法律以来諸国ノ法律ハ勤メテ旅店ノ為メニ先取特権ヲ與ヘタリ本邦ニ於テモ亦旅店ニ與フルニ同一ノ先取特権ヲ以テセリ而シテ其先取特権ハ唯旅客ノ携帯シタル物件ニ限ルモノニシテ且ツ其物件ガ仍ホ旅店ニ存立スル間ニ止マル

右ニ掲ケタル先取特権ノ担保ヲ有スル債権ハ軍ニ宿泊料及ビ食料ニ基ク債権ニ止マルモノニシテ旅客ノ滞在中ニ生シタル前記以外ノ債

梅ハ此担保ヲ有スルモノニ非ラズ例令バ物品
買入ノ為メニ立替ヘタル金銭医薬ノ費用馬車
荷物若クハ衣服ノ修繕等ノ如キ是レナリ旅店
ノ主人ガ旅客ノ為メニ甚ダ便益ヲ與ヘ経ツテ
單ニ旅客一身ニ對スルノミナラズ一般ニ對シ
テ利益ヲ與フベキ労役ヲ為スコトハ三法者ノ
固ヨリ奨勵スベキ所ナリト雖トモ法律ハ未ダ
旅店ノ主人ヲシテ意外ノ信用ヲ為スベキコト
ヲ余スルモノニ非ラズ
医薬ノ費用衣服馬車ノ修繕ノ費用ノ如キハ右

ニ述ブルガ如ク通常旅店ノ主人ノ為メニ先取特権ヲ得セシムルモノニ非ラズト雖トモ若シ旅店ノ主人ガ此等ノ費用ヲ代償スルニ当リ充分ノ注意ヲ施ニシ医師并ニ動産物ノ保有者ガ法律ニ由テ享有スル先取特権ニ代位スルコトヲ得ベキ旨取書ヲ取リタル場合ニ於テハ此債権ニ付テモ仍ホ先取特権ヲ有スベシ蓋シ医師及ビ動産物ノ保有者ハ或ハ第百四十条ノ明文ニ依リ或ハ第百五十五条ノ明文ニ依リ共ニ先取特権ヲ有スルモノニシテ此等ノ先取特権

八全ク旅店ノ主人ニ属スル先取特権ニ対シ仍

ハ全ク旅店ノ主人ニ属スル先取特権ニ對シ仍
ホ優先権ヲ有スルモノナリ（第百并百六十三条
及ビ第百六十四条）此故ニ旅店ノ主人ニシテ此
等ノ先取特権ニ代位シ由テ此債権者ニ弁済ヲ
為シタル場合ニ於テハ旅店ノ主人ハ元来自己
ノ有スル先取特権ト共ニ之ヲ併有スルコトヲ
得ベシ何トナレハ此場合ニ於テハ法律上ノ代
位ノ場合ニ非ラスト雖トモ猶ホ任意ヲ以テ代
位ヲ為スコトヲ得ベケレハナリ

旅客ハ常ニ徒者及ビ牛馬等ヲ有スルモノナル

が故ニ其宿泊料及ビ食料モ亦先取特権ヲ生ゼシムヿヲ可キモノナルヿト勿論ナリ

第七則　舟車運送営業人ノ先取特権

第百六十条

本条ニ掲ケタル先取特権ノ正当ナル原因ハ前条ニ掲ケタル先取特権ト同一ニシテ全ク二個ノ理由ニ基クモノナリ即チ其一ハ債権者ノ為ニタル另役ニシテ一般ノ利益上是レガ奨勵ヲ為スヲ可トスルモノニシテ其二ハ默示ノ動産質置シナリトス而シテ此先取特権ノ発スル所

モ亦前条ノ先取特権ト均シク罷場法ニ在リトス

本条ノ先取特権ハ水陸ニ由テ運送セラレタル物件ヲ以テ目的トス故ニ其運搬スル所海上ナルトヌハ河川若クハ運河ナルトニ由テ区別スルコトナシ

此運送人ガ商人ナルト否トヲ区別スルヲ要セズ荷物ノ所有主ガ其荷物ニ付キ付キ添ヒタルト否トヲ問フコトヲ要セズ然リトモ立法者ハ次ノ原則ヲ設ケタリ曰ク本条ノ先取特権ヲ行

フニハ運送物件ガ猶ホ運送者ノ手ニ在ルニトヲ以テ要トス唯此条件ニ実シテハ多少ノ例外ナキニ非ラズト雖トモ此事ハ猶ホ後ニ至ツテ説明スベシ之ヲ要スルニ本条ノ先取特権ハ留置権ト共ニ在在スル所ノモノタルヲ知ルベシ

本条ノ先取特権ニ由テ担保スル債権ハ左ノ如シ

一 物件及ビ人ノ運搬ノ費用是レ其一ナリ若シ運送物ノ所有者ガ是レニ付キ添ヒ旅行スル場合ニ於テハ単ニ人ノ運搬費ノミナラズ仍ホ其食料ニ充テ先取特権アルベキハ勿論ナリトス

関税其他正当ナル附従ノ費用トシテ其二ナリ正当ナル附従ノ費用トハ之ヲ例スルニ倉庫荷造費及ビ引渡人費用等ヲシテナリ

舟車運送営業人ガ目的トスル地ニ達スルヤ又ハ之ク運送物ヲ舟車内ニ積置クコトヲ得ズ而シテ一方ニ於テハ其土地ニ於テ自己ノ債権ノ担保タル運送物ノ監視ノ為メニ適当ナル場所ヲ有スルモノニ引ラサルヲ以テ運送営業人ガ一旦此運送物ヲ受取人若クハ其代理人ニ交付シタル人一事ヲ以テ直チニ全ク先取特権ト留置

権トヲ失ハシムルハ決シテ其宜シキヲ得タル
モノニ非ラズ然リト雖トモ又甚タ長キ時日ヲ
経過シタル後ニ至ツテ此等ノ営業者ニ石炭ノ
四倍ヲ為スコトヲ許スモ其当ヲ得タリト謂フ
可カラズ此ニ於テ立法者ハ舟車運送営業人ニ
共フルニ俗告ニ依リ物件ノ返還ヲ請求スルノ
権利ヲ以テスルト同時ニ之ヲ四十八時日内ニ
制限セリ若シ運送営業人ノ為シタル俗告ニシ
テ其効果ヲ有スルヿト能ハサルトキハ債権者ハ
成ヘク短キ時日ニ於テ裁判所ニ出訴スルコト

ヲ要スル而シテ此出訴ガ成ベク短キ時日ニ於テ
出サレタルヤ否ヤハ一切ノ事情ニ照シテ裁判
所ガ認定スベキ所ノコトナリトス
左ニ掲クル如ク運送シタル物件ハ一旦先取特
権ヲ有スル債権者ノ手ヲ離ルヽコト有ルガ故
ニ時トシテハ第三者ニ譲渡サレタル如キコト
又有ルコトヲ得ベシ此ノ如キ場合ニ於テ其譲
渡ニ至シ運送人ノ権利ニ詐害ヲ加ヘサルトキ
ハ運送人等ハ第三取得者ニ對シテ請求スル所
アルヲ得ズ此場合ニ於テ債務者ノ三ニ詐害ノ

意思アルヲ以テ足レリトスルヤ将又第三取得者ノ共通ノ詐害ナルモノヲ要スルヤハ一ニ財産編第三百四十一条ニ規定シタル区別ニ従フ可キナリ之ヲ要スルニ孰レノ場合ニ於テモ先取特権ノ目的トスル所ハ本条ニ掲ケタル第百四十八条ニ規定セル如ク第三取得者ヨリ債務者ニ對シテ弁済スル可キ代金ノ上ニ存ス可キナリ

第八則　職務上ノ所為ニ對スル債権者ノ先取特権